

令和5年度学校評価報告書

学校名（廿日市市立友和小学校）

評価計画					自己評価					学校運営協議会	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 9月	最終 2月	達成	評価	結果の分析	委員評価コメント	
主体的に考え、表現する力が身に付いている。	基礎学力が定着している。	個別最適な学びを充実させ、基礎学力の定着を図る。	国語科・算数科における単元テスト「知識・技能」の平均正答率が80%以上の児童の割合	80%	国語科 62% 算数科 70%	国語科 71% 算数科 78%	93%	B	児童の主体性を喚起する授業づくりに取り組みながら、学力の底上げを図ることができた。	・年度当初より、学習規律が定着してきている。引き続き、集中した学習態度を指導し、基礎学力の定着を図ってほしい。	・自立した学びが難しい児童に対して、個別の手立ての工夫に努める。
	◎かかわり合いのある学習活動を通して、共に学び、表現する力が身に付いている。	単元デザインを取り入れた授業改善を行い、児童の主体的な学びを推進する。	学習における課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の割合 【市共通項目】	85%	83%	81%	95%	B	単元のゴールイメージを授業者と児童、または児童相互で共有することや他教科や学校行事と関連させたり地域の人材を招いたりすることで、活動の目的を理解しながら必要感をもって協働的に学習する児童が増えた。	・小学校から自己表現の力を付けることを意識するとよい。集団の前で自分の思いを話す習慣が大切であると感じる。	・学習の進捗や内容を自己選択したり自己決定したりする機会を増やすことで、さらに主体性の向上を図っていく。
自らの役割と責任を自覚し、仲間と協働しながら進んで行動しようとする。	◎児童の自己有用感が高まっている。	授業や生活の様々な場面において、児童が役割と責任を果たし、貢献しようとする活動に取り組む。	自己有用感が高まっていると肯定的に回答した児童の割合	85%	80%	87%	100%	A	係活動や委員会活動では、児童の自主的な活動ができるような場の設定に努めることができた。	・廊下での丁寧な雑巾がけ等、すばらしい態度で掃除をしている児童がいた。このような態度が学校全体に広がるとよい。	・引き続き、児童の自主的な活動を促すために、活動の場を設定し、児童の発想の具体化を後押しする。
			学校生活における課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の割合	85%	83%	81%	95%	B	相談することも解決の一つであることを児童に意識付け、自分でよりよい解決方法を考えることができるようになった。	・学校の掲示物で、お互いのよいところを書いたメッセージカードがあった。このような取組を継続してもらいたい。	・つながりタイムを有効に活用し、友達との関係づくりのための簡単なレクリエーションをするなど、日常生活に生かせる活動を行う。
働き方改革が進んでいる。	働き方改革を意識し、健康で協働的な職場作りが進んでいる。	時間を意識した働き方に取り組む。	月当りの時間外勤務が45時間以下の職員の割合	85%	75%	80%	94%	B	教職員が効率よく業務を進め、月当りの時間外勤務が45時間以下の職員の割合は改善傾向である。しかし、教職員の健康等に配慮し、業務を精選していく必要がある。	・小学校の教職員の業務は多岐に渡り、大変だと感じる。地域人材が、学校教育によりよく関わることが今後も重要になってくる。	・引き続き、業務を精選することで教職員の疲労回復に努める。 ・業務内容を早めに確認し、計画的に業務を進めていく。また、授業準備等の時間確保に努める。